

「頭脳循環」インド出張報告

出張者：田辺明生（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

出張期間：2012年2月5日～14日

出張先：ウトカル大学人類学部、デリー大学社会学部

出張報告：

「頭脳循環」事業を含むこれからの学術交流および教育研究に関する相談を、ウトカル大学人類学部のPrasanna Patra准教授およびデリー大学社会学部のAbhijit Dasgupta教授と行った。Prasanna Patra准教授は日本学術振興会の外国人特別研究員（PD）として、またAbhijit Dasgupta教授は客員教授として、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に所属していたことがあり、お互い旧知の仲であるため、きわめて友好的な雰囲気の中で教育研究相談は行われた。

Prasanna Patra准教授は、非正規プログラムとして日本語教育をウトカル大学で始める予定であり、その面にかかる援助を要請された。まずは個人的なレベルで必要な支援を行うこととしたい。また日印社会の比較研究を推進したい旨をPatra准教授から申し出られ、これについても、広域アジアの比較研究と発展させる可能性を含めて、前向きに検討することとなった。

Abhijit Dasgupta 教授とは、主に現代インドの政治社会の変容について議論を行った。特に下層民の政治参加の様態について、オリッサ州と西ベンガル州を比較しながら検討した。また、社会的排除の問題について来年度インドで国際会議を行う計画について相談を交わした。当国際会議については、別予算で執行する予定である。

また頭脳循環事業で派遣中の佐藤慶子さんとブバネーシュワルで出会い、研究計画などについて相談した。



Patra 准教授とともに



デリー大学社会学部キャンパス